

荒尾干潟

～渡り鳥のオアシス～



荒尾干潟保全・賢明利活用協議会



Sasuhikan Bppon-no-ki Foundation

守る、つなげる、共に生きる。——

公益財団法人 再春館「一本の木」財団

荒尾干潟の概要

荒尾干潟ってどんなところ？

国内有数の広さを誇る荒尾干潟

荒尾干潟は、熊本県、福岡県、佐賀県、長崎県に囲まれた有明海の中央部東側に位置し、南北9.1km、東西最大幅3.2km、干潟面積約1,656haあり、単一の干潟としては国内有数の広さを誇る干潟です。



荒尾干潟は生物の宝庫

有明海は、多くの河川の流入により大量の土砂が運ばれることで遠浅の干潟が発達した、日本最大の干潟差がある内海です。この干潟差により土砂が絶えず巻き上げられ、共に巻き上げられる豊富な有機物を食べて無数のプランクトンが生育し、このプランクトンを干潟にすむゴカイやカニなどの底生生物が食べ、その底生生物を鳥などが食べるという多様な生態系が造られています。

干潟は魚類にとっても、エサが豊富で生息しやすい環境で、また干潟は水深が浅く大きな魚は入ってこられないので、魚類は干潟で産卵し、稚魚は干潟で育ち大きくなってから沖へ出ていきます。

荒尾干潟では、ノリの養殖などが行われています。泥の中に空気が入るように干潟を耕したり、アサリがすみやすい環境を作るために砂をまいたりといった活動も漁業関係者によって行われています。

マジャク

アナジャコの地方名
荒尾市の「市の魚」。
エビの仲間で、干潟の
浄化に作用している。



干潟は水をきれいにする

私たちが海や川に流す生活排水には有機物が含まれています。海水に有機物がたまってしまうと富栄養化の状態になり、プランクトンが異常発生してしまいます。これが赤潮などの原因です。干潟にすむゴカイやカニ、貝類などは、これらの有機物を食べてくれるため、干潟の水はきれいな状態を保てます。

干潟の減少

干潟は私たちだけでなく、多くの生物にとって大切な環境です。しかし、日本の干潟は第2次世界大戦後、現在に至るまで急速に減少してきました。全国の干潟面積は、開発による埋立などが原因で戦後当時に比べ約40%減少しています。こうした中、荒尾の干潟は1978年以降減少しておらず、また有明海には日本の干潟の約40%が残っています。



荒尾干潟はラムサール条約湿地です

荒尾干潟はラムサール条約湿地に登録されています。

荒尾干潟は、2012年7月3日に、ラムサール条約湿地登録簿に世界で2,054番目として登録されました。

ラムサール条約について

正式名称「特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約」

1971年に「湿地および水鳥の保全のための国際会議」が開催されたイランのラムサールで条約が採択されたため「ラムサール条約」と呼ばれています。特に水鳥の生息地などとして国際的に重要な湿地やそこに生息・生育する動物や植物の保護を目的としています。生物多様性の保全に関する条約としては、最も古く先駆的な存在です。

ラムサール条約湿地は、条約に基づき「国際的に重要な湿地にかかる登録簿」に登録された湿地です。

ラムサール条約の柱

- 保全・再生**：水鳥だけでなく私たち人間にとっても重要である湿地を保全・再生する
- 賢明な利用**：湿地の体系を維持しつつ、そこから得られる恵みを持続的に活用する（ワイズユース）
- 交流・学習**：湿地の保全や賢明な利用のために人々の交流や情報交換、教育などを進める

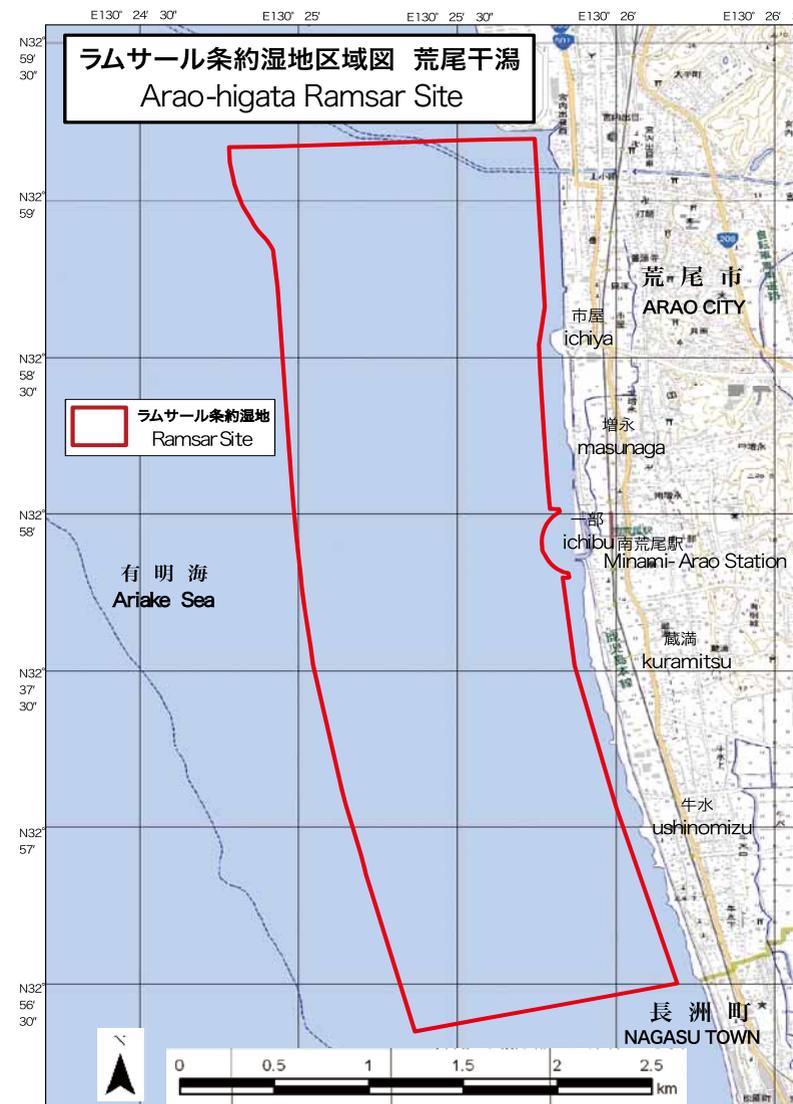
日本におけるラムサール条約湿地位置図



荒尾干潟は国指定鳥獣保護区特別保護地区に指定されています。

国指定鳥獣保護区は、鳥獣を保護する必要があると認められる区域を環境大臣が指定するものです。また、環境大臣は鳥獣保護区の区域内において、鳥獣の保護またはその生息地の保護を図るため、特に必要があると認められる区域を特別保護地区に指定することができます。

この特別保護地区に指定されている区域（面積：754ha）がラムサール条約湿地の荒尾干潟です。



荒尾干潟を訪れるシギ・チドリ類

シギ・チドリ類は秋から春にかけて、荒尾干潟を中継地および越冬地として飛来します。秋にはシロチドリ、ダイゼン等、冬にはハマシギ、シロチドリ等、春にはオオソリハシシギ、キアシシギ等が主にやってきます。環境省が実施しているモニタリングサイト1000（正式名称：重要生態系監視地域モニタリング）



シロチドリ（観察時期：春、秋、冬）
荒尾市制施行70周年記念事業の一環で「市の鳥」に選定される。冬鳥として飛来し、主に干潟、水田などで見ることができる。胸の黒帯が中央で切れて後顎が白い。オスには前頭に黒い帯がある。



オオソリハシシギ（観察時期：春、秋）
くちばしが長く、上に反っている。背が高く、足が長い大型のシギ。荒尾干潟には毎年500羽前後飛来する。夏羽は頭部から腹部にかけて赤褐色。旅鳥として主に春によく見られる。



ダイゼン（観察時期：春、秋、冬）



ハマシギ（観察時期：春、秋、冬）



キアシシギ（観察時期：春、秋）



メダイチドリ（観察時期：春、秋）

、推進事業）シギ・チドリ類調査において、2008年春期および2011年冬期の調査で全国第2位のシギ・チドリ類の個体数が観測されました。また、荒尾干潟には世界的に絶滅が危惧されている種類の鳥たちもやってきます。



キョウジョシギ（観察時期：春、秋）



アオアシシギ（観察時期：春、秋）



チュウシャクシギ（観察時期：春、秋）



トウネン（観察時期：春、秋）



ソリハシシギ（観察時期：春、秋）



ミュビシギ（観察時期：春、秋）



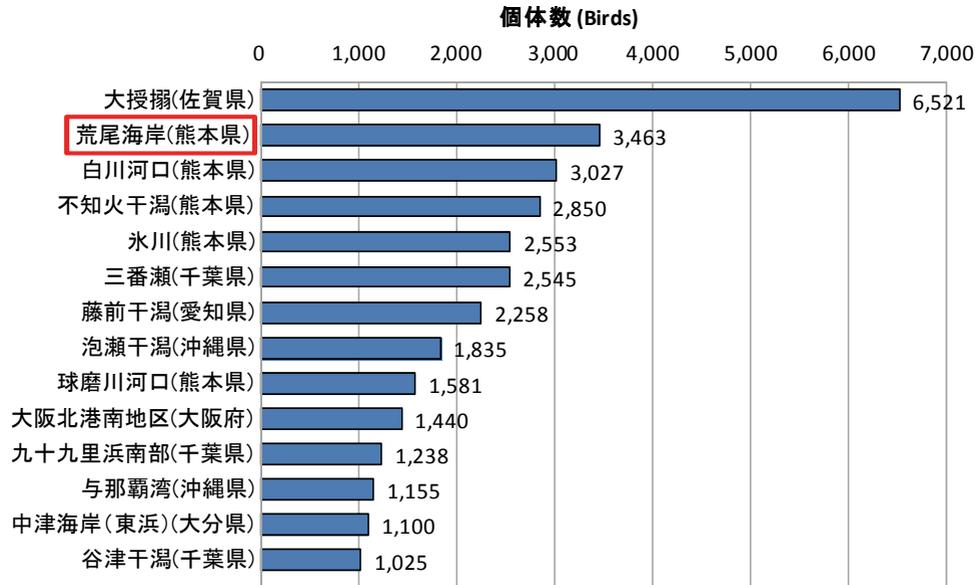
ダイシャクシギ（観察時期：春、冬）



ホウロクシギ（観察時期：春、秋）

荒尾干潟は渡り鳥のオアシス

モニタリングサイト1000 2011年度冬期シギ・チドリ類の渡来状況



モニタリングサイト1000 シギ・チドリ類季節別渡来状況 (荒尾干潟)

(秋期)

	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度
個体数	710	1,773	703	1,665	878
種類	16	15	13	16	14
全国順位	15	4	11	4	7

(冬期)

	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度
個体数	1,928	2,152	2,140	1,738	3,463
種類	8	8	8	7	6
全国順位	6	5	8	9	2

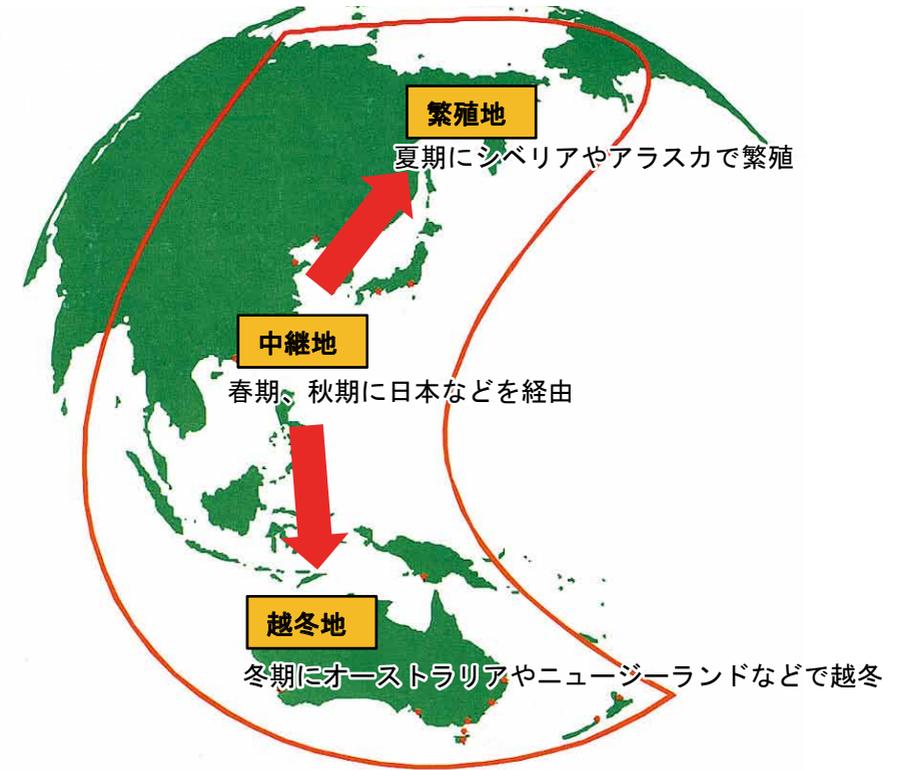
(春期)

	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度
個体数	3,799	6,492	4,601	3,389	4,361
種類	15	15	15	13	13
全国順位	4	2	4	6	4

シギ・チドリ類は地球を縦断する

北極圏からオーストラリアやニュージーランドまで行き交うシギ・チドリ類は、年間を通じてとても長い距離を移動する「渡り鳥」です。その移動距離は、数千から1万kmにもなると言われています。

シギ・チドリ類は、夏にシベリアやアラスカなどの北極圏で生活し、冬にはオーストラリアやニュージーランドなどで越冬しています。春と秋には渡りの途中に中継地である日本などの干潟や水田で休息や栄養補給をします。このように、シギ・チドリ類は、地球規模でさまざまなタイプの自然環境で生活する渡り鳥です。



鳥は環境の「バロメータ」

鳥たちは私たちに身近な環境で生息し、非常に目につきやすいものです。豊かな環境にはたくさんの鳥が生息しており、鳥は環境の「バロメータ」といことができます。

しかし、近年、渡り鳥の生息地である干潟などが世界各地で減少しており、渡り鳥の生息が危ぶまれている状況です。シギやチドリたちが、無事に旅をするためには、繁殖地や越冬地、またその間にある中継地のうちのどこも欠くことができません。それぞれの地点に健全な湿地が存在し、またそこを保全していくということが非常に大切です。

荒尾干潟を訪れる鳥

荒尾干潟には、シギ・チドリ類の他にも、カモメ類やカモ類などのたくさんの種類の野鳥がやってきます。



クロツラヘラサギ

環境省レッドリストの絶滅危惧種に掲載されている。へらのような形をした黒くて長いくちばしの特徴。くちばしから眼のあたりまで黒く見える。世界で2,000羽前後が生息し、絶滅が危惧されている。冬鳥として飛来し、荒尾干潟には毎年4～6羽飛来している。

ズグロカモメ

レッドリストに掲載されており、絶滅が危惧されている。冬羽は頭部が白いが、夏羽は頭部が黒いのが特徴。くちばしは太くて黒く、脚は暗い赤。干潟が主な餌場で冬鳥として飛来する。



ツクシガモ

絶滅が危惧されている種。頭から顎にかけて緑がかった黒色で胸から腹にかけては白色。胸から背にかけて茶色の帯がある。くちばしは赤い。冬鳥として飛来する。



ダイサギ (観察時期: 通年)



コサギ (観察時期: 通年)



アオサギ (観察時期: 通年)



カモメ (観察時期: 冬)



ユリカモメ (観察時期: 冬)



セグロカモメ (観察時期: 冬)



マガモ (観察時期: 冬)



カルガモ (観察時期: 冬)



コガモ (観察時期: 冬)



ヒドリガモ (観察時期: 冬)



オナガガモ (観察時期: 冬)



ミサゴ (観察時期: 通年)



ハヤブサ (観察時期: 通年)



ハクセキレイ (観察時期: 通年)



カササギ (観察時期: 通年)

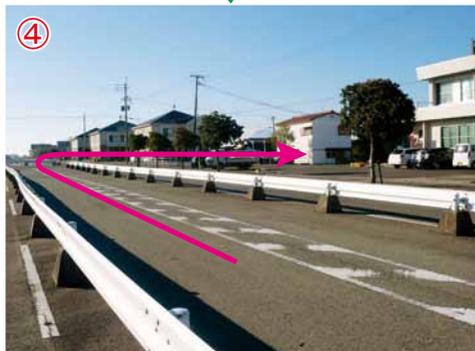
荒尾干潟の野鳥観察ポイント

荒尾漁協前

冬期にダイシャクシギ、ホウロクシギ、アオアシシギが見られる。



グリーンランドを西に直進。踏切横断後約200m突き当たりを左折。



蔵満海岸（海岸手前に駐車場有）満潮時にシギ・チドリ類が集まる。



荒尾港周辺
満潮時シギ・チドリ類が集まる。冬期にはカモ類が集まる。

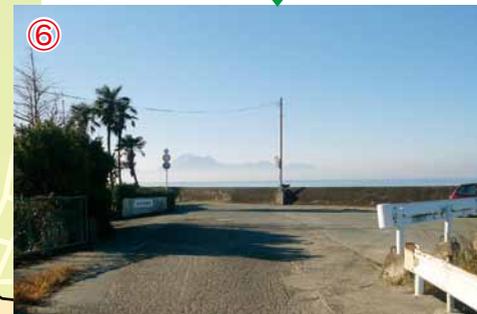


国道389号線大牟田市方面から大島3丁目交差点の次の信号を右折。

荒尾市潮湯（旧老人福祉センター）前海岸満潮時にシギ・チドリ類が集まる。



市屋交差点を荒尾市役所方面に直進、次の信号の先を左折。



たから製網前（蔵満海岸から南へ1km）満潮時にシギ・チドリ類が集まる。



※野鳥観察時の注意

- ・干潟は足場の悪いところがありますのでご注意ください。
- ・野鳥観察に適した時間帯は満潮時刻の前後約2時間です。
- ・渡り鳥は長旅の途中に栄養補給と休息に来ています。脅かしたり近寄りすぎたりせず、温かく見守ってあげてください。
- ・潮汐表：荒尾市HP＞行政情報＞環境政策＞荒尾干潟（潮汐表）

干潟の恵み

私たちは、干潟から多くの恵みを受けています。干潟で作られるノリやアサリなども干潟からの恵みの一例です。干潟を利用する上で大切なことは、干潟をただ利用するだけでなく、私たちが干潟の生態系をしっかりと守りながら、その恩恵を受けて利用していくことです。

荒尾マジック釣り大会

毎年夏期開催。毛筆を使った有明海伝統の漁法でマジックを釣り上げるという珍しい体験ができる機会です。



清掃活動の様子



探鳥会の様子



干潟の景色もお楽しみください

広大な干潟の先には雲仙岳を望み、美しい夕焼け、渡り鳥の群れなどを見ることができます。荒尾干潟とふれあって、心を和ませてみませんか。

アクセスマップ



交通(蔵満海岸まで)

- ・九州自動車道南関ICから車で40分
菊水ICから車で40分
- ・JR鹿児島本線荒尾駅から車で10分
南荒尾駅から徒歩10分
- ・長洲港から車で5分



市の鳥：シロチドリ

荒尾干潟保全・賢明利活用協議会

事務局：荒尾市環境保全課

〒864-8686 熊本県荒尾市宮内出目390番地

TEL 0968-63-1386 FAX 0968-63-1376

E-mail kanpo@city.arao.lg.jp

URL <http://www.city.arao.lg.jp>